

## 女子学生の被服志向性を規定する心理的要因の検討

文学研究科社会文化学専攻

平井 佑佳

なぜ被服は多様化しているのだろうか。被服の機能が、物理的刺激から身体を守るためだけなら、多くのデザインは必要ない。被服は自己を他者と差別化し、社会的アイデンティティ

を明確化するという自己表現機能を有するという観点から、本研究では若年女性を対象に被

服に求めるイメージの志向性について検討し、それぞれの志向性を規定している心理的要因を

明らかにした。

では、具体的にどのような被服の好みか、どのような自己のあり方と関係があるのか検討するために、まず、被服の好みや種類、測定方法等、こういった点を明確にする必要がある。

そ

のため、本研究は次の2つの研究から構成される。研究1は予備調査的な位置づけであり、BASF(2014)や長澤(2016)を参考に、被服イメージの観点から被服志向性を測定することの妥

当性を検証した。研究2は本調査的位置づけであり、研究1で用いた被服志向性尺度の構造を

確認し、従来の研究で用いられてきた購読雑誌、及び着基準との対応関係を検討した。また、

購入場所や購入基準に影響する情報収集源との関連も調べ、被服への各志向性の特徴を明確化

した。その上で、第2の目的として被服イメージと自己表現との関連性を検討する。

研究1では、女子大学生の被服志向性の構造を検討し、志向性の次元が具体的にどのような

デザインの被服と関連しているのか確認した。その結果、「Cute」「Sexy」「Smart」「Active」の4つの基本イメージによって構成されることが示された。では、こうしたイメージを示すこ

とで、女性はどのような自己を表現しようとしているのか。研究2では、それぞれのイメージ

を志向する者と自己表現との関連性を4つの側面から検討した。第1に被服による自己表現を

実際にどのように実行しているのか、対人的欲求との関連から検討した。第 2 に先行研究によ  
って、承認欲求、独自性など自己表現に関する個人特性との関連が着装基準に影響を与えるこ  
とが指摘されていたため、本研究においても、イメージに関する被服志向性と個人特性との関  
連を明確にし、どのような被服イメージがどのような欲求を満たすことに用いられているか  
を明確にした。第 3 に、異性に求める関係性に適した自己表現を被服を通じて示している可  
能性が考えられるため、イメージに関する被服志向性と恋愛観との関連を検討した。第 4 に被  
服イメージへの志向性と着装基準との関連性を検討し、各イメージへの志向性を持つ自己表現  
機能について検討した。

以上の研究結果から、それぞれ対人的欲求、恋愛観、着装基準などと特徴的な関連が示され、  
求める対人関係や他者に表現したい自己像に応じて被服のイメージを使い分けていることが  
示された。